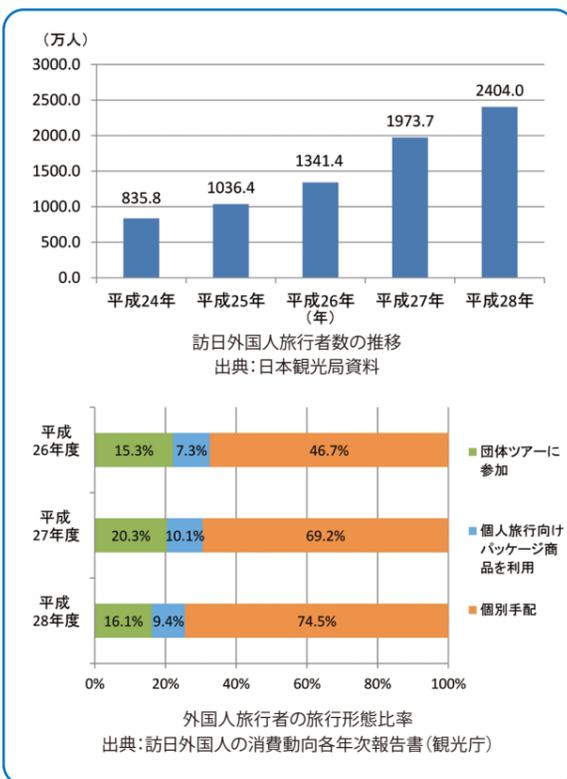


外国人旅行者でも円滑に移動できる環境整備をはじめました

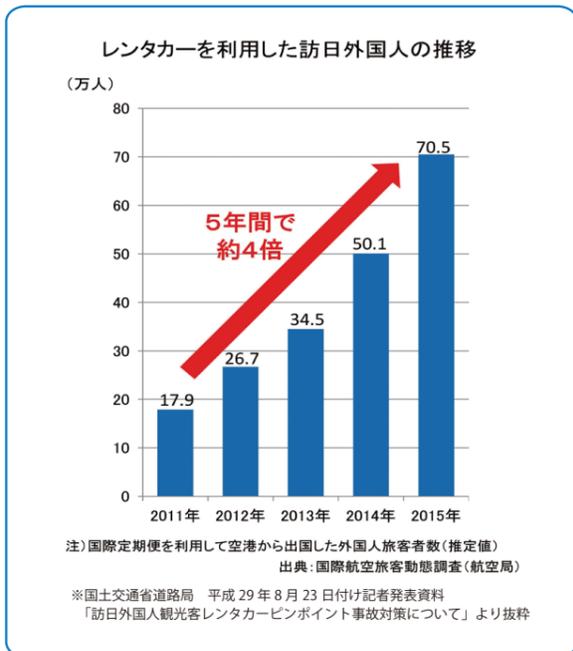
平成28年3月、日本政府は今後の観光政策の中長期的な方針となる「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定し、2020年の訪日外国人観光客数を4,000万人、外国人旅行消費額を8兆円、同じく2030年には6,000万人で15兆円の消費を目指すという明確な数字を示すとともに、それを達成するため、「赤坂迎賓館や京都迎賓館といった公的施設の開放」や、「観光地へのアクセス交通の充実」、「主要交通機関の海外からのインターネット予約を可能にする」などといった様々なことに取組み、数値目標の達成を目指しています。

その結果、平成28年には訪日外国人旅行者数は2,404万人を突破するなど年々増えていますが、一方で個人で航空券や宿泊先を手配する個人旅行者(FIT: Foreign Independent Tour)が増加してきており、これら個人旅行者が円滑にそして快適に移動できる環境の整備は急務となっています。



しかしながら、我が国の公共交通機関、特に二次交通においてはモータリゼーションの進展に伴い、減便や路線の廃止となり利用しにくいものとなっていたり、乗降方法が地域や会社ごとに異なっていたり、案内表記が多言語化されていないなど、外国人旅行者はもとより、日本人でも分かりにくく、利用しにくいのが現状です。また、レンタカー利用の増加に伴う外国人運転手の死傷

事故の増加や、営業許可を持たずに乗客を有償で送迎する行為(いわゆる「白タク」)が行われるなどの問題も発生しています。



そこで当財団では今年度より、外国人旅行者等が円滑に移動するための交通手段の改善や案内情報の充実化などに取組む団体等を支援するとともに、それらの先進的な取組を広く普及させる取組を開始しました。

4月には支援団体の公募を行い、全国から22件の応募がありました。先般当財団内に設置した「地域における外国人旅行者等の移動円滑化普及推進委員会(委員長: 石田東生 筑波大学 特命教授)」において、支援する2団体を選定しました。当財団では2団体の取組実現を目指し、資金やノウハウ、合意形成などの支援を3年間行っていきます。

支援決定2団体とプロジェクト

実施団体名	プロジェクト名称と概要
十勝圏二次交通活性化推進協議会	十勝圏外国人旅行者等移動円滑化プロジェクト バス・タクシー事業者を中心として、バス停表記やウェブサイトの多言語化や、二次交通を活用した外国人観光客向けの周遊プランの作成のほか、外国人観光客に対応できる乗務員向けのコミュニケーションツールの開発などを行います。
三好市	三好市千年のかくれんぼ観光地域移動円滑化プロジェクト 宿泊施設や住民団体、観光協会などと連携し、駅での二次交通案内表記の充実化や駅周辺周遊マップの作成のほか、デマンド型周遊タクシー導入の検討などを行います。

エコプロ2017へ出展しました

エコプロダクツ展は、環境配慮型製品・サービスの普及を目的に、平成11年から毎年、東京ビッグサイトで開催されている環境総合展示会であり、ビジネスマンや行政担当者、一般消費者が来場する国内最大の環境イベントです。

今年度も引き続き出展し、運輸部門における地球温暖化問題の現状やその対策、財団活動の紹介をビデオ放映とパネル展示により行いました。

(エコプロ2017の実績…出展: 616社・団体、来場者数: 約16万人、当財団ブースへの来訪者数実績…4,500名)



当財団の出展風景

国際会議へ参加しセミナーを開催しました

当財団は昨年11月6日から17日までドイツ・ボンで開催された「国連気候変動枠組条約第23回締約国会議(COP23)」に参加しました。

また、COP23ジャパンパビリオンで当財団が主催するセミナー「運輸部門における地球温暖化対策の取組 ~エコドライブ宣言の普及に向けて~」を同年11月13日に開催しました。

基調講演で中部大学の林教授は「アーバンゼーションとモータリゼーションの限界」について説明し、それに打ち勝つためにエコドライブを対策の一つとして位置づけました。続いて、当財団の圓山部長が「日本のエコモ財団における低炭素交通のイニシアチブ」を講演しました。

後半のパネルディスカッションでは、国連WAFUNIFで採択されたエコドライブ宣言の普及に向けて検討しました。冒頭、株式会社アスアの髙橋プロデューサーから主旨とエコドライブ宣言の内容が紹介されました。続いて、同社の間地社長がエコドライブ宣言を制定するまでの経緯を報告し、加えて、エコドライブの普及に向けた取組を説明しました。さらに、国連WAFUNIF親善大使の吉田氏からWAFUNIFのエコドライブとの出会いについて紹介がありました。日本自動車工業会の大場主査は日本自動車工業会におけるエコドライブの取

組を紹介し、エコドライブ宣言との関わりについて説明しました。当財団の圓山部長から第1回国連エコドライブカンファレンスの参加メンバーとしてエコドライブ宣言に対しコメントがありました。最後に、中部大学の林教授からエコドライブ宣言の普及に向けて客観的な立場からアドバイスをいただきました。

質疑応答ではアフリカから参加した2名からコメントがありました。1つめは、アフリカでは交通事故は死因の第2位であり、若者は車を飛ばしたがるため、エコドライブを早く導入したいというコメントでした。2つめは、アフリカでエコドライブを導入するにはどうすればよいか、メソドロジーを説明されても分からないので、キャパシティビルディングから始めて欲しいというコメントでした。



林先生による基調講演